

第二期環境文明塾の概要報告

2019年10月より開始した第一期環境文明塾に続き、2022年7月から2023年6月までの計6回にわたり第二期環境文明塾を開催しました。参加者は会員企業から9名、インターン生1名の計10名。脱炭素とはどんな社会？脱炭素時代の経済や資源循環・再エネの動向、脱炭素時代を生き抜く中小企業、脱炭素時代の企業倫理、自治体やNPOとの関係構築など、毎回、その分野で活躍する講師の話聞いた後、夫々のテーマについて自社の取組や課題を出し合い、解決策を講師も交えた参加者全員で議論していきました。5回目まではWeb開催でしたが、最終回は対面で行うことができ、これまでの成果とこれからの各社での取組計画などについて話し合いました。普段あまり交流のない異業種の参加者でしたが、互いの現場を知り、悩みや課題、さらに進んでいる企業からはアドバイスも出るなど、打ち解けた雰囲気の中での意見交換となりました。

第三期も今年10月あたりから開始予定ですので、企業の皆様の参加をお待ちしています。

(事務局)

【最終回のまとめの一例－CO₂見える化と省エネ対策－】

	見える化	公表方法（社員の把握と外部公表）	省エネ対策（既に導入／導入予定）	省エネ対策（中期的）
A社	△	CSR 報告書、Web	収集用自動車の電気自動車化を検討中。回収ルート効率化	
B社	×	リユースパネルによる太陽光発電を開始（報道発表）	自社ビルではなく設備変更困難。在宅作業、Web 会議でコピー量・出張削減。リユースパネルの活用	
C社	○	GX リーグ登録済み、使用量は Web で毎日公開	On-site PPA、LED など自社で出来ることは概ね実施済み	省エネタイプ印刷機導入。不要な印刷物削減
D社	○	報告書、顧客向け会社見学時に公表。社員へ情報公開課題。	省エネ機器（エアコン、プリンター、LED など）	社員休憩所の改善、省エネ機器の導入
E社	△	使用量把握はできているが集計分析は×	LED 化、エアコン等省エネ機器、省エネタイプのコンプレッサーの導入、道路状況により自動車の電気化には課題あり	営業車の電気自動車化（充電スタンドが少ない立地で今後情勢を見ながら検討）
F社	○	工場内モニターで全社員把握、Web 公開。時間と電力量を把握	ソーラーパネル設置拡大、社用車（電気1、ハイブリッド2）。現場温度管理はセンサーで見える化。LED 導入済	窓や空調の改善が必要、自社開発設備担当者の意識向上必要

【脱炭素時代の企業倫理 ②抑制の知恵の具体例】

- ・その仕事が環境の保全、持続性の確保に役立つかを常に考える
- ・自社のサービスが人や社会にとって必要か、望まれているか、過剰ではないか客観的に考える
- ・価格や物質的モチベーション・欲望だけで動かず環境面や社会面にも配慮して冷静に判断する
- ・無駄をなくす心がけで足るを知ることで必要以上の負荷(環境、経費、人に対し)をかけない
- ・欲しいと感じた時、衝動的に行動せず、一呼吸置き、本当に必要なモノかどうかよく考える
- ・必要以上に得ようとしていれば自我を抑えて足りない人に譲るよう努める